

5月25 - 29日週のポンド円レビュー

June 1, 2009

ポンド円堅調、円売り材料が目白押し

High : 155.75 円 Low : 149.58 円
 Close : 154.34 円

ポンド円は堅調。週を通して円売り材料が目白押しでポンド円も買い一辺倒の動きとなった。さらに週末にかけては、月末のリバランスに絡んで、ポンドや豪ドルが大きく買われるとの見方から、ポンドドルが上昇したことを背景にポンド円も 155.75 円まで買われた。

5/25 (月) 150.85 円

英米市場が休場で市場参加者が極端に少なくなるなかでの取引となった。東京市場では北朝鮮の核実験実施・ミサイル発射を受けて地政学リスクが意識されて、地理的に近い本邦では株価の下落及び円売りに。ポンド円は一時 151 円半ばまで上昇する場面が見られた。

5/26 (火) 151.34 円

序盤は北朝鮮が再度ミサイルを発射したことなどから、アジア株が軟調に推移。これを受けて、リスク回避的な動きが高まりドルが対主要通貨で買い戻される動きとなった。よってポンドドルの下落につれる形でポンド円も 149.58 円まで下落。しかし、米消費者信頼感が市場予想を大幅に上回ったことから米株が急騰し、ポンド円は 151 円半ばまで反発した。

5/27 (水) 152.10 円

本邦における外貨建て投信設定が比較的大きな額になるとの見方から円売りが先行。その後は一時的に円が買い戻される場面は見られたが、限定的なものにとどまると、ポンド円は 153 円前半まで上昇した。

5/28 (木) 154.44 円

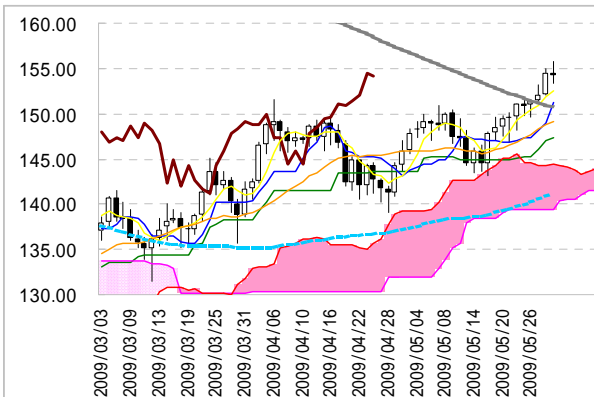
世界景気底入れ期待や原油など商品市況が堅調地合いとなるなかで、円買いポジションが解消。ポンド円は 155 円手前まで上昇した。

5/29 (金) 154.34 円

クロス円主導でショートカバーが強まるなか、ポンド円は 155.75 円まで上昇。英住宅指標の好結果や月末リバランスに絡んでポンドや豪ドルが大きく買われるとの見方も上昇を後押しした。しかし、買いが一巡すると 153 円前半まで反落した。

月日	High	Low
5/25 (月)	151.52 円	149.81 円
5/26 (火)	151.57 円	149.58 円
5/27 (水)	153.11 円	151.20 円
5/28 (木)	154.90 円	152.00 円
5/29 (金)	155.75 円	153.28 円

ポンド円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

- 158.15 (昨年のリーマン・ブラザーズ破たん後の高値 (197.45 円) と年初来安値 (118.85 円) の半値戻し) = = = 先週末の NY クローズ 154.34 円 = = =
- 151.30 (日足一目均衡表・転換線)
- 147.40 (日足一目均衡表・基準線)
- 139.33 (日足一目均衡表・雲の下限)

英国の重要指標結果

- 5/28 (木) [結果] (前回)
- 5月 CBI 流通取引調査 [-17] (+3)
- 5/29 (金) [結果] (前回)
- 5月 GfK 消費者信頼感 [-27] (-27)
- 5月ネーションワイド住宅価格 [+1.2%] (-0.3%)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 151.30 - 158.15 円

ポンド円は、テクニカル的に見れば上昇トレンドが継続しており、さらに上値を試す可能性は否定できない。しかしながら、米格付け機関ムーディーズが米国債の格付けを「安定的に」据え置いたことで、米ソブリンリスクが和らいだこともあり、足もと急速に加速したドル売りの流れに一服感が出始めていることには注意が必要だ。また、ドル売りの背景とされる財政赤字の拡大懸念は同様に英国にとっても懸念事項であり、財政懸念がクローズアップされれば通貨への信任が揺らぐ可能性は小さくない。従って、今回の反発は腰が入った上昇とは考えづらく上値余地は限られてきたようだ。